

すゝやか

No.136
2012秋

平成24年9月末現在

事業者数 21社
被保険者数 1,816人
被扶養者数 1,960人

神戸新聞健康保険組合

神戸市中央区東川崎町1-5-7
☎(078)362-7166

☆平成23年度収支決算

単位 千円

項目	平成23年度	前期比	%
被保険者数	1,875人	-46人	97.6
平均標準報酬月額	491,382円	-3,814円	99.2
【収入】			
保険料収入	767,564	-24,632	96.9
その他収入	16,494	-1,456	91.9
経常収入	784,058	-26,088	96.8
【支出】			
保険給付費	475,951	-9,749	98.0
納付金	352,812	-19,912	94.7
事務費	53,092	549	101.0
保健事業費	50,630	234	100.5
その他支出	5,463	-337	94.2
経常支出	937,948	-29,215	97.0
経常収支	-153,890	-3,127	98.0
財政調整交付金他	10,455	-11,471	47.7
収支決算	-143,435	8,344	106.2

概要

平成23年度の決算案を審議する理事会、組合会が7月6日に開催され、原案通り承認されました。収支内容は別表のようになりました。

平成23年度の経常収入は7億84058千円、経常支出は9億37948千円となり、経常収支で1億53890千円の赤字となりました。

収入

収入は、前年度より46名減少し、平均標準報酬月額においても前期比で3814円減額となりました。また、被保険者数は前期より46名減少し、平均標準報酬月額においても前期比で3814円減額となりました。

保険料収入は7億675

支出

支出については前期より大幅に改善されました。項目別に見ると、
◇保険給付費は前期比97.49千円減額となりました。
平成21年度の給付費4億89620千円をピークに、平成22年度（前期比3920千円減）、今年度と漸減傾向を見せています。被保険者数（被扶養者数）の減少

64千円、前期より24632千円の減収となりました。被保険者数と平均標準報酬月額の減少によるものです。その他収入と合わせ、前期比で26088千円の減額となりました。保険料収入については、平成20年度の8億62627千円をピークとして、この3年間で1億円近い減収となっています。このような推移もあり、今年の4月より保険料率を1%アップいたしました。

☆納付金明細推移

単位 千円

項目別	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	前期比
前期高齢者納付金	162,206	144,540	163,105	120,801	-42,304
後期高齢者支援金	152,354	172,187	175,045	186,841	11,796
退職者給付拠出金	76,620	40,984	34,245	45,162	10,917
老人保健拠出金他	132	149	329	8	-321
納付金	391,312	357,860	372,724	352,812	-19,912

も一因と考えますが、高額医療費を必要とする患者が少ないこともその要因です。医療費は高齢者になれば当然増えますが、当健保の任意継続（退職後2年間継続限定）の被保険者数は平成21年度で110人、平成22年度は83人、平成23年度は

56人と急激に減少しており、これも給付費減額の大きな要因になっていると考えます。

◇納付金は前期比で2千万円近い減額となりました。納付金の明細は前頁表の通りです。

納付金が前期比でマイナスになった要因は、前期高齢者納付金が4千万円強減額されたことによります。後期高齢者支援金は年度を追うごとにジリジリ微増していますが、前期高齢者納付金は年度により凸凹があります。この二つを簡単に説明すれば、後期高齢者支援金は各健保組合の規模（被保険者数＋平均標準報酬月額）により支援金が按分されています。一方、前期高齢者納付金は被保険者のうちの前期高齢者（65歳～74歳）の1人当たりの保険給付費から納付金が算出されます。因みに、平成23年度の当健保の前期高齢者（対象者は58名）の1人当たり

の年間平均の給付費は253887円でした。この額から平成25年度の前期高齢者納付金（2年後に反映）が算出されることになりました。

納付金はある意味で危険を孕んでいます。仮に、前期高齢者のうち2～3人に高額医療費が必要となった場合、2年後の納付金は激増され、単年度とはいえ健保財政は多大な負担を強いられることとなります。

◇事務費・保健事業費については双方微増となりました。健保として平成24年度

より支出圧縮に取り組んでききます。

介護保険料

介護保険料の収支決算は、収入が86572千円に対し、支出は81154千円で収支差額5418千円は全額繰り越すことが承認されました。

当健保の23年度の介護保険第2号被保険者本人（40歳以上65歳未満）の年間平均人数は962人で前期より3名の減となりました。

健康保険組合公告

健康保険法第47条第2項に規定している当組合の平成24年9月30日時点での平均標準報酬月額を次の通り公告します。

平均標準報酬月額 30等級
500,000円
平均標準報酬日額 16,670円

〈任意継続者の保険料について〉

退職後に任意継続として当健保組合に加入される方は、平均標準報酬月額または当人の従前の報酬月額のうち、いずれか低い額で算出することになっています。適用は平成25年4月からとなります。

*月額1千万円以上高額レセプトと最高金額の推移

年 度	件 数	最高金額	主傷病名	当健保交付金(年額)
平成19年	140件	37,629,030円	血友病	3,526,100円
平成20年	134件	28,416,300円	血友病B	22,876,100円
平成21年	155件	38,280,620円	血友病B	30,303,400円
平成22年	174件	46,392,680円	血友病B	21,290,500円
平成23年	179件	115,504,940円	血友病A	10,124,400円

◆高額医療費で初めて1億円を超える(健保連ニュース)

健保連(健康保険組合1443組合)は高額医療給付に関するデータを別表のように発表しました。

平成23年度の患者1人当たりの医療費が10000万円以上の「超高額レセプト」

は179件で、3年連続で過去最多を更新。このうち上位17件は2000万円を超えている。最高額は「血友病A」患者の1億15504千円で初めて1億円を突破した。

健保連の高額医療費給付に関する交付金交付事業は昭和50年からスタートし、56年度からは法定事業となり現在に至っている。

各健保組合が拠出する「財政調整事業拠出金」を財源に、全健保組合の共同事業として運営されている。平成23年度は1437組合(対象組合の98.6%)から申請があり、835億2466万5800円を交付している。当健保も表のように交付を受けている。それにしても、1億円超の医療費にはただただ驚くしかない。

2012年健康フェア開催

健保組合は9月26日、神戸新聞本社会議室で「健康フェア2012」を開催しました。

健康フェアは体験型の保健事業で、ご自身の健康に関心をもってもらうと平成15年度からはじめました。ここ数年は体力測定が中心のフェアでしたが、今年度は少し趣向を変え、姿勢チェック（動作分析）やポールストレッチ運動と椅子ストレッチやストレッチエック、肌年齢測定を体験してもらいました。

今年度は少し趣向を変え、姿勢チェック（動作分析）やポールストレッチ運動と椅子ストレッチやストレッチエック、肌年齢測定を体験してもらいました。



姿勢チェック（動作分析）では、センサーを使って現在の体のゆがみや、これから自分の体のどこに脂肪がつきやすいか？などが分析表示され、それぞれのゆがみに対応した簡単なストレッチ方法を指導してもらいました。

ポールストレッチ運動は床に寝ころんでするエクササイズなので参加される方は少ないのでは？と心配していました。実際はストレッチに参加された方のほとんどが体験して良かったと回答して下さいました。

椅子ストレッチではタオルがあれば簡単に出来る運動を体験していただきました。

ストレッチでは指先の血流と心拍数から測定し、肉体・精神的ストレス度やストレス対処能力や血管年齢が表示され、肌年齢

測定では、肌年齢やスキニングケアアドバイスやお薦めサプリ等が表示されました。参加された方のこれから生活に少しでも参考にできればと思っています。

また、関心のある事や悩んでいる事は？の質問の1位は肩こりでした。2位は姿勢、3位はダイエットという順位でした。

このアンケート結果は、保健事業の検討課題として取り組んで行きたいと思っています。

これを機会に無理のない範囲で簡単な事で良いので

◆「ジェネリック医薬品差額通知書の送付について」

健保組合は、年内にも薬代（ジェネリック利用の場合）の差額通知書を送付します。これは、現在処方されている薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合に、薬代がどれくらい軽減できるか、その一例をお知らせするものです。

ジェネリック医薬品への切り替えにより、患者の自己負担額を減らすとともに、健保組合の財政の健全化に

役立てたいと考えています。ぜひご協力ください。

継続して運動をしていただければと思っています。

【対象者】 ジェネリックに切り替えた場合、年間1万円以上の薬代が軽減される方のみ通知。

【期 日】 11月末通知を予定しています。

なお、ジェネリック医薬品への切り替えにあたっては、必ず医師、薬剤師と相談のうえ、行っていただくようお願いいたします。

※差額通知書

平成24年1月の処方実績					ジェネリック医薬品に切り替えた場合					
薬局／病院名	先発医薬品名	薬価	数量・単位	現状支払額※①	ジェネリック医薬品名※②	製薬会社名※②	薬価	数量・単位	削減可能額※③	切替後支払額
〇〇〇薬局										
	アーチスト錠10mg	75.3	56錠	¥1,265	アテノート錠10	大洋	29.8	56錠	¥764	¥501
					カルベジロール錠10mg「アメル」	共和薬品	29.8	56錠	¥764	¥501
					カルベジロール錠10mg「JD」	ジェイドルフ	29.8	56錠	¥764	¥501

春の健診結果について

春の「事業所別健康診断」の結果は表①の通りです。

今回の受診率は90・5%、昨年は88・4%でしたので若干好転しています。有所見率平均は今年が51・1%、昨年は52・4%であり、こちらも気持ちだけ良くなっています。来春の健診も結果報告をお知らせしますので、受診率、有所見率とも改善判

されるようにご協力ください。

表②は健診結果の総合判定と項目別判定について、昨秋と比較したものです。総合判定でA(異常なし)前より8・57ポイント減少、C(経過観察を要す)で9・62ポイント増加しています。つまり、前回にはA、Bと判定された方のうち160

人以上が、今回「経過観察を要する」に移動したことになり、今後とも注意する必要があります。一方、項目別でA判定(異常なし)では、ヘモグロビンA1c、r-GTPでそれぞれ約3ポイント増えましたが、その他の項目では大きな動きはありません。秋の健診を実施している最中、総合、項目別判定が良化しているように期待したいところです。

表①「H24年春・事業所別」健診結果

事業所別	受診対象者	受診者	受診率	有所見率	H23年有所見率	H23年受診者
神戸新聞社	965	885	91.7%	51.0	52.2	909
輸送センター	77	76	98.7%	78.9	74.0	73
神戸新聞事業社	92	88	95.7%	56.8	54.1	85
文化センター	46	43	93.5%	37.2	41.7	36
出版センター	16	16	100.0%	37.5	31.6	19
健保組合	2	2	100.0%	0	75.0	4
ラジオ関西	50	48	96.0%	47.9	50.0	52
サンテレビ	178	145	81.5%	57.2	56.4	140
中四国D S	12	12	100.0%	50.0	69.2	13
販売開発センター	1	1	100.0%	0	0	0
サン神戸映画社	16	14	87.5%	50.0	42.9	14
総合印刷	150	136	90.7%	51.7	40.0	135
神戸新聞興産	23	23	100.0%	65.2	56.5	23
総合折込	38	37	97.4%	59.4	60.5	38
文化財団	6	6	100.0%	50.0	33.3	6
厚生事業団	4	4	100.0%	75.0	100.0	2
エルマガジン社	76	70	92.1%	40.0	31.3	80
プレスセンター	14	14	100.0%	71.4	62.5	16
地域創造	19	18	94.7%	55.6	54.5	22
神戸新聞会館	7	7	100.0%	42.9	60.0	5
D Sクオリティ	59	54	91.5%	64.8	64.0	50
任意継続	61	32	52.5%	81.2	71.4	28
合計	1,912	1,731	90.5%	51.1	52.4	1,750

表②

【神戸新聞グループ】		平成23年秋季定健	平成24年春季定健
		受診者 1,744 人	1,731 人
総合判定	A (異常なし)	361 人 (20.70%)	210 人 (12.13%)
	B (軽度の異常)	139 人 (7.97%)	122 人 (7.05%)
	C (経過観察を要す)	613 人 (35.15%)	775 人 (44.77%)
	D (治療を要す)	478 人 (27.41%)	467 人 (26.98%)
	E (精密検査を要する)	153 人 (8.77%)	157 人 (9.07%)
項目別判定でA判定(異常なし)の人数			
	BMI	1,205 人 (69.09%)	1,201 人 (69.38%)
	ヘモグロビンA1c	1,449 人 (83.08%)	1,495 人 (86.37%)
	中性脂肪	1,256 人 (72.02%)	1,274 人 (73.60%)
	LDL-cho	1,374 人 (78.78%)	1,369 人 (79.09%)
	γ-GTP	1,308 人 (75.00%)	1,349 人 (77.93%)
	血清尿酸	1,448 人 (83.03%)	1,407 人 (81.28%)
	血色素量	1,610 人 (92.32%)	1,602 人 (92.55%)

特定保健指導最多数に今年度の特定保健指導の参加者は動機づけ支援10名、積極的支援12名の計22名となりました。保健指導の対象者は、春の定期健診を社会保険神戸中央病院管内で受けた40歳以上の被保険者

の健診データから抽出、対象者に保健指導への参加を呼び掛けました。平成20年度の開始以来、22名は最も多い人数となりました。保健指導は来年3月までの6カ月間行われま